

一、交流の経緯と意義

一九六七年に、私がミシガン大学工学部に研究員として滞り、以来、すでに二十数年にわたっての交流があった。

八年前に、当時の工学部長から、合衆国の五指に入るミシガン大学と学術交流を行いたいと申し出を行った。ミシガン大学側は検討するという返事であったが、一九八九年に「日本経営技術調査プロジェクト」という大規模な研究計画を連邦政府から命令され、それに私が日本委員として参加していることから、今度は、ミシガン大学側から交流をしてもよいとの回答があり、一昨年に詳細な検討を行った。

ミシガン大学工学部は、学生数約六千五百人を擁し、教官数も約千八百人もいて、全米でも規模の大きな大学であり、外郭団体として、産業技術研究所（IIT）という民間研究所を持ち、ここを通しての研究費も含めて、外部から流入する研究費が全米第一位という産学官共同研究の代表的機関である。

このような特長ある大学との学術交流は、広島大学としてもメリットは大きいとの考えから、交流協定締結に入った。

二、相互の議論を経て協定書調印へ

昨年の春に、協定書調印の準備として、ミシガン州アンアバー市のミシガン大学を訪れ、二人の副学長 E・グラリー氏と G・キャリグナン氏と会い、交流協定の具体的な内容



調印式風景

工学部とミシガン大学工学部 国際交流協定を締結

工学部 計数管理工学講座 長 町 三 生

について討議した。主な内容は、①学生の交流、②教官の交流、③毎年確実に交流すること、④支援する財源の確保、等であり、幸いにも日本側からの支援としては、「フォード日本」が名乗りをあげてくれている。協定書調印以前からでも交流をし

ようということになり、早速ミシガン大学大学院電子工学専攻の D・クーパー君が来学し、当方からは二名の大学院生が渡米した。

副学長 G・キャリグナン教授（学術研究・大学院担当）がバーバラ夫人を伴って来学され、昨年十月二十五日の正午前に、本学の佐々木和夫工学部長とともに、協定書に双方が調印した。その日の夕刻には、全日空ホテルで工学部主催のパーティが開かれ、原田康夫学長ほか十数名の参加を得て盛大に行われた。

ミシガン大学側からは、ミシガン大へ四か月滞在して一セメスターを担当してくれる、滞在できるだけの給与を保証したいといっている。渡航費については「フォード日本」が支援してくれる予定である。意欲ある教官の交流申し出を期待したい。

三、ミシガン大学工学部の概要
一八七一年に創立された古い歴史を持つ大学であり、十五学部を持つ合衆国五指に入る大学。工学部には、十五学科、十八の附設研究所を擁しており、合衆国では大きな工学部の一つに数えられている。



学長を交えてのパーティ

アメリカ人間工学会 優れた外国人研究者賞受賞

工学部計数管理工学講座 長町三生



十月十三日にシアトルで開催された第三十回アメリカ人間工学会で、「優れた外国人研究者賞 (Distinguished Foreign Colleague Award)」を受賞いたしました。

この外国人研究者賞は、アメリカ人間工学会が、毎年一名アメリカ人以外で特別の業績を上げたり、貢献したりした人間工学者を表彰する名誉ある賞であり、これまでに、イギリス人間工学会の W. T. Singleton 教授、E. N. Corlett 教授や椅子の研究で世界的に有名な E. P. Grandjean 教授など、イギリス、フランス、ドイツ、スイスなどの人間工学会会長が表彰されてきました。

日本人としては、日本人間工学会会長 大島正光教授から数えて三人目に当たります。私の場合の表彰理由としては、翻訳を含めて六十冊以上の書籍の出版、「国際産業人間工学」誌の副編集長としての貢献、ジョブ・デザイン、安全人間工

学、ロボティクス、感性工学、パーティシパトリ・アゴノミックスなど、広範囲にわたる研究を通じての業績と人間工学の指導、それに大韓人間工学会および中国人間工学会での指導と活動に対して、与えられたものです。

一九六七年にミシガン大学に渡り研究員として働いて以来、多くの外国人友人とともに国際会議を支援したこと、日本の企業での人間工学の導入による生産性向上等の成果が、外国人には特異な研究内容に写ったので、高く評価されたのではないかと考えております。

外国人研究者賞を授与されたことを機会に、いつそう国際舞台で人間工学の普及に務めること、並びに今後は、アジア諸国での人間工学研究の普及の支援にまわることをこれからの仕事にしたい、と考えています。

(ながまち・みつお)

